（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 大分大学教職大学院・大分県教育庁教育人事課
	事業名：よりよい研修を通して、よりよい学校づくりを支援する ～教育委員会との連携による指導主事等対象の研修開発～
	研修等名：①学校教育への ICT 導入の最前線 ②「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の姿 ③学校の内発的改善力を高める
	開催日時：令和５年１０月２５日～１２月２６日　１３：１０～１３：５０ 開催場所：大分大学教職大学院（大分市旦野原 700 番地）・オンデマンド配信 参加人数（実数）と参加者の属性：（１７８人）本学教員１６人、指導主事１５５人、大学院生７人 （オンデマンド講義動画再生回数：①１７９回、②１６２回、③１２０回、1/31 現在） 研修（3 回）の延参加人数：５０９人（1/31 現在）

内容： ※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

第１回の大坪聡子指導主事（つくば市教育委員会）からは、つくば市教育委員会として ICT の学校導入にどのように取り組んでいるかについて情報提供をいただいた。つくば市の情報教育への取組の歴史は長く、45 年になるが、当初から今で言うところの「個別最適な学び」の実現に向けた取組であった。それがぶれずに今日まで来ており、その延長線上に生成 AI の学校導入があるということであった。未来を切り拓く子どものための教育であることを心がけているという信念の部分を説明していただいた。（1/31 現在 179 回）

第２回の貞広斎子教授（千葉大学）からは、中央教育審議会の議論をめぐる政策動向と教員の職能開発の大きく２点について丁寧に解説をいただいた。「令和の日本型学校教育」は現行の学習指導要領の浸透を図る上で重要な役割を果たしていること、教員の職能開発に係る中身について「特別支援教育」と「ICT」が特出しされている現状について、背景も交えて情報提供をいただけた。また、教員の研修履歴が導入されるが、その実質化のために、その背後にある「効率性モデル」と「信頼モデル」の対立軸の中で何に留意しなければならないかのポイントをご教示いただけた。（1/31 現在 162 回）

第３回の佐古秀一学長（鳴門教育大学）からは、学校改善における教員の内発的改善力を引き出すことの重要性を軸に、先生が実際に継続的に関わった改善実践を解説いただいた。その中で、教員が日常の教育実践から実感にもとづく言葉を交わすことによってしか真実は見えてこないという内容があった。つまりどこかから（教員の常識や一般的な教育用語）借りてきた言葉で教育課題を捉えようとしてもうまくいかない、ということである。組織的に取り組んでも問題が改善の方向に進まない場合、ダブルループの思考に切り替えて前提の捉え直しをすることが重要であるということに気づかされた。（1/31 現在 120 回）

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

大坪指導主事の講義は「まさに市教委で取り組もうとした矢先の講義でとても参考になった」、貞広教授の講義には「『令和の・・・』は耳にしていたが、より深い理解に誘ってもらえた」「教育政策の背後にある力学について興味深く聞けた。理解が追いつかないのでもっと勉強したいと思った。」、佐古学長の講義は「２年近くの取組から見えてくる教員や子どもの変化に刺激を受けた」「数少ない校内研修をどのように効果的に行うか、分析シートが参考になった」などの感想が寄せられている。また、「令和５年度日本教職大学院協会研究大会」に参加し、南九州の複数の教職大学院（鹿児島・宮崎・熊本）から「対面とオンラインの併用研修の課題」に関する聞き取りを行った。この結果が、第３回研修の字幕付動画配信へとつながり、受講者からも好評を得た。

アイディアや工夫したこと： ※*3～5* つ程度の箇条書きしてください。

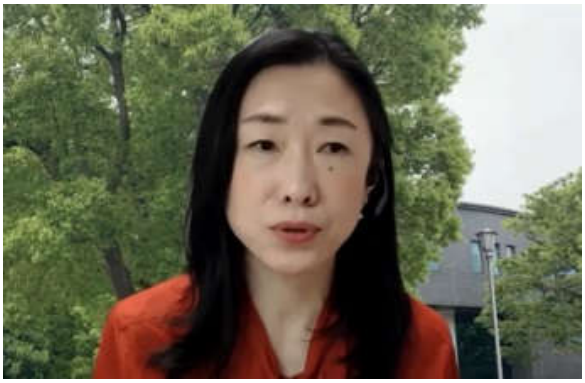
・教職大学院 FD 研修と県教委主催の指導主事等研修を兼ねることで受講しやすさにつなげた
・県教委教育人事課と研修内容・講師等の事前打合せを入念に行った
・県教委関係者は、リアルタイムのオンライン参加あるいはオンデマンド視聴を選択可能とした
・字幕を付けることで専門用語の理解が進むように手間をかけた（第３回）

＜写真・図など＞　※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

第 1 回（10 月 25 日）の様子

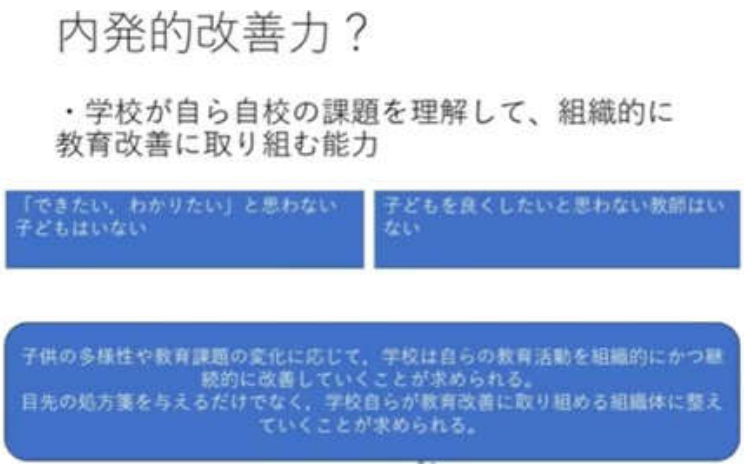
学校教育への ICT 導入は、つくば市内全ての学校で行っている（目指している）が、導入が目的化しないように、常に「未来を生きる子どものために学校ができることは何か」について心がけるようにしているとの説明があった。一方で、新しい世界に踏み出すことによって得られる教員の学びも実感しているという話があった。

第 2 回（11 月 29 日）の様子



教員の職能開発という課題は難しい側面があり、そこには常に「学ぶ側（教員）」と「学ばせたい側（教育委員会）」（場合によっては、無理解な社会が批判的に「学ばせたい側」に立つことも）の対立があるという解説があった。一方で、社会に対する説明責任を果たすことも重要であり、そのことによってしか教員の専門性は社会的に存在できない、という説明があった。社会構造の中での教員の在り方・見られ方について深く考えさせられた。

第 3 回（12 月 26 日）の様子



学校は他律的に改善が求められることが多いが、内発的改善こそがよりよい学校の姿に通じるということを、ある学校の事例を用いてわかりやすく説明があった。